

平成26年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (北海道)

－ 10 a 当たり予想収量は578kg (作況指数108) の見込み －

【調査結果の概要】

- 1 北海道における平成26年産水稻の作付面積(青刈り面積を含む。)は11万2,100haで、うち主食用作付見込面積は、10万3,500haが見込まれる。
- 2 9月15日現在における水稻の作柄は、10 a 当たり予想収量578kg (作況指数108) が見込まれる。
- 3 主食用作付見込面積に10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量 (主食用)は59万8,200 tが見込まれる。

図 作柄表示地帯別10 a 当たり予想収量 (9月15日現在)

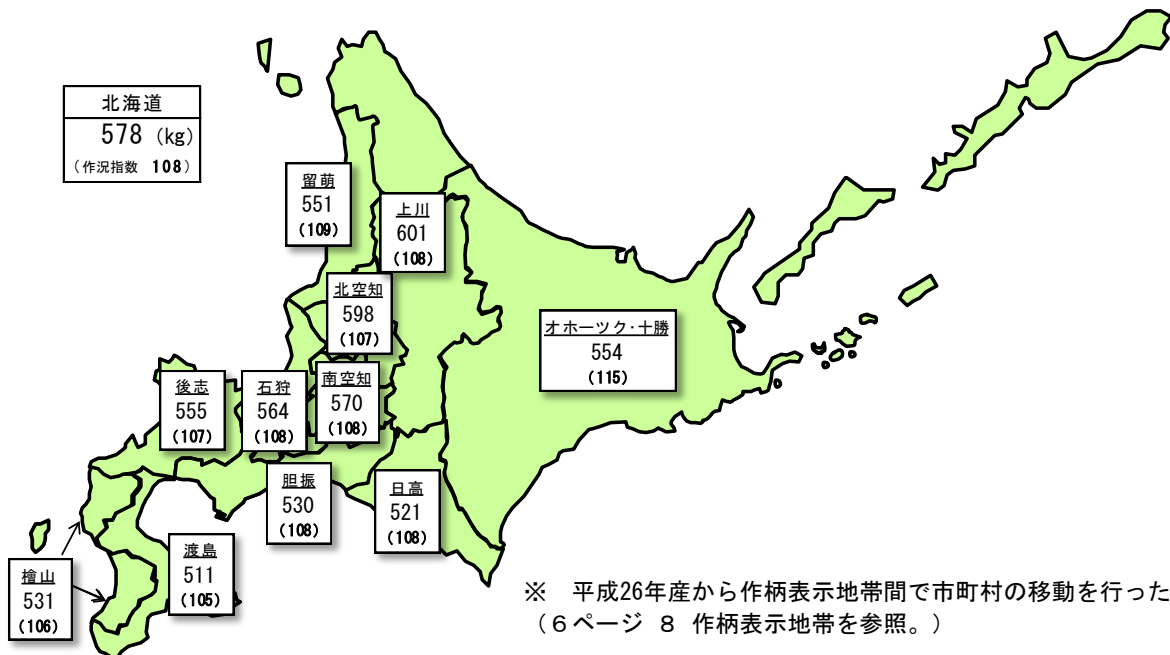


表 平成26年産水稻の作付面積及び9月15日現在の10 a 当たり予想収量

区分	作付面積 (青刈り面積を含む。)			10 a 当たり 予想収量	10 a 当たり 平年収量	作 況 指 数	参 考	
	実 数	前年産との比較					主食用作付 見込面積	予想収穫量 (主食用)
		対 差	対 比	④	⑤=①×④			
	ha	ha	%	kg	kg	③=①/②	ha	t
北海道	112,100	△ 800	99	578	537	108	103,500	598,200

- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積 (青刈り面積を含む。) から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等 (備蓄米、加工用米、新規需要米等) の作付面積を除いた面積 (見込み) である。
- 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり予想収量の比率である。
- この作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【調査結果】

1 作付面積

平成26年産水稲の作付面積（青刈り面積を含む。）は11万2,100haで、前年産に比べて800ha減少した。

これは、本年の生産数量目標が減少したことにより豆類等へ転換されたことや、高齢化による労働力不足により作付を中止した農家があったためである。

なお、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は10万3,500haで、前年産に比べて3,500haの減少が見込まれる。

2 作柄の概況

9月15日現在における北海道の水稲の作柄は、6月全般の好天による旺盛な分けつにより穂数が「多い」、もみ数が「やや多い」となったこと、登熟は、出穂・開花期以降の気象経過により「平年並み」が見込まれることから、10a当たり予想収量578kg（作況指数108）が見込まれる。

なお、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は59万8,200tが見込まれる。

【統計表】

平成26年産水稲の作付面積及び9月15日現在の10a当たり予想収量（作況指数）
（作柄表示地帯別）

区 分	作付面積（青刈り面積を含む。）			10a当たり 予想収量 ①	10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	平 年 比 較						
	実 数	前年産との比較					穂 数 の多少	1穂当たり もみ数 の多 少	全もみ数 の多少	登 熟 の良否			
		対 差	対 比										
北 海 道	ha 112,100	ha △ 800	% 99	kg 578	kg 537	108	多	い	やや少ない	やや多い	平年並み		
石 狩	7,660	△ 20	100	564	521	108	多	い	平年並み	多	い	平年並み	
南 空 知	22,000	△ 400	98	570	527	108	多	い	やや少ない	多	い	平年並み	
2) 北 空 知	28,300	△ 500	98	598	560	107	多	い	やや少ない	やや多い	や や 良		
2) 上 川	30,700	400	101	601	557	108	多	い	平年並み	多	い	や や 不良	
留 萌	4,520	△ 60	99	551	504	109	多	い	やや少ない	平年並み	良		
渡 島	3,060	△ 50	98	511	486	105	や や 多	い	やや少ない	平年並み	や や 良		
檜 山	4,270	0	100	531	500	106	多	い	やや少ない	やや多い	平年並み		
後 志	5,070	0	100	555	519	107	多	い	やや少ない	やや多い	平年並み		
胆 振	3,930	△ 40	99	530	489	108	多	い	少	な	い	や や 良	
日 高	1,520	△ 40	97	521	484	108	多	い	少	な	い	や や 良	
オホーツク・十勝	1,090	△ 30	97	554	483	115	多	い	少	な	い	平年並み	良

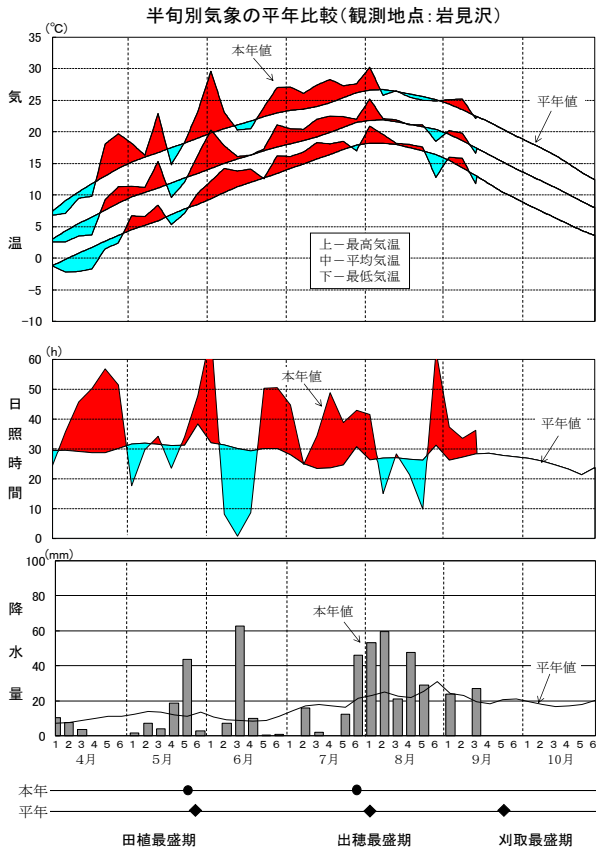
注：1 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

2 「北空知」地帯と「上川」地帯の作付面積の前年産との比較は、前年産の「北空知」地帯と「上川」地帯との単純比較である（6ページ「8 作柄表示地帯」を参照。）。

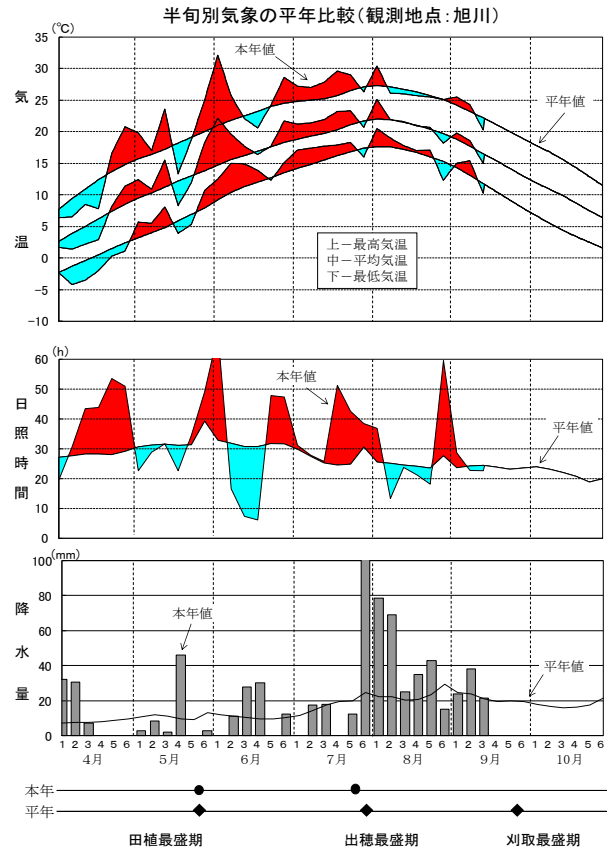
【気象経過】

気象経過と生育ステージ

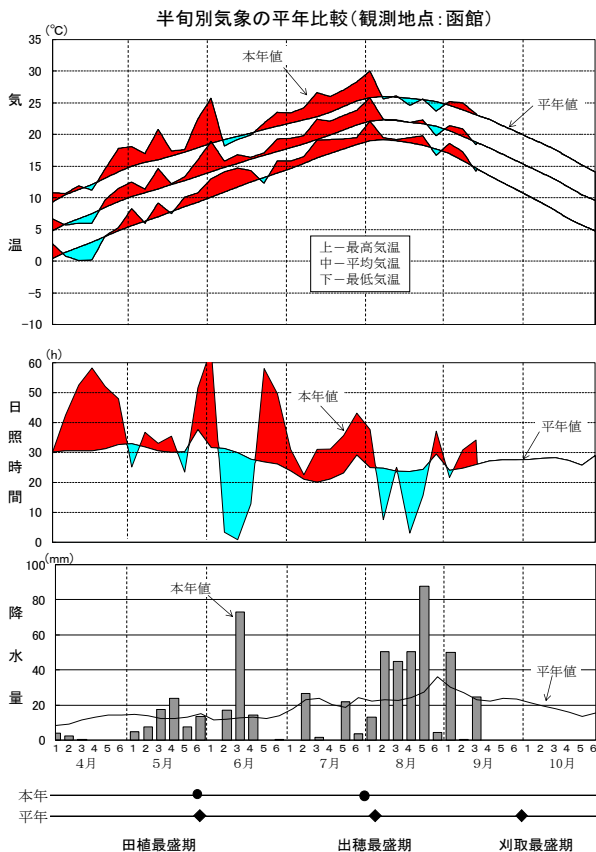
南空知



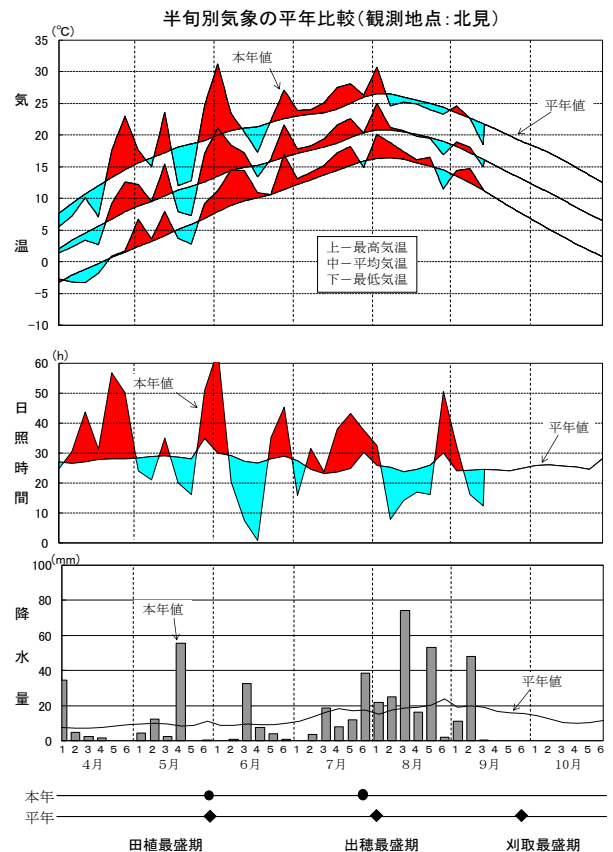
上川



渡島



オホーツク・十勝



資料:「アメダス気象データ」

【関連するデータ、情報】

◎ 水稻作況調査結果の主な利活用

- 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」及び米穀の需給見通しのための資料
- 「食料・農業・農村基本計画」における生産数量目標の策定及び達成状況検証のための資料
- 「農業災害補償法」（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

水稻の年次別推移(北海道)

年 産	作 付 面 積 (青刈り面積を含む。)		10 a 当 たり 収 量 kg	10 a 当 たり 平 年 収 量 kg	作 況 指 数	収 穫 量 (子実用) t	参 考	
	う ち、子 実 用	主 食 用 作 付 面 積 ha					収 穫 量 (主食用) t	
平成 16 年産	120,500	120,500	518	528	98	623,900	…	…
17	119,100	119,100	573	528	109	682,600	…	…
18	115,500	115,400	558	530	105	643,900	…	…
19	116,100	116,000	520	532	98	603,200	…	…
20	114,600	114,600	565	534	106	647,500	110,900	626,600
21	114,500	114,400	475	535	89	543,400	112,500	534,400
22	115,100	114,600	525	535	98	601,700	112,400	590,100
23	114,000	112,900	562	535	105	634,500	109,100	613,100
24	113,200	112,000	572	535	107	640,600	108,700	621,800
25	112,900	112,000	562	535	105	629,400	107,000	601,300

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用等面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
 2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（子実用）から、備蓄米、加工用米、米粉用米等の作付面積を除いた面積である。
 3 表中の「…」は事実不詳又は調査を欠くことを示している。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稻作付面積調査及び水稻作柄概況調査として実施し、水稻の作付面積、作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査対象数

- 作付面積調査
標本単位区：1,591単位区
巡回・見積り：北海道内全市町村（179市町村）
- 作柄概況調査
作況標本筆：630筆 作況基準筆：41筆
巡回・見積り：北海道内全市町村（179市町村）

3 調査事項

水稻の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

4 調査期日

- (1) 作付面積調査：7月15日現在
- (2) 作柄概況調査：9月15日現在

5 調査方法

- (1) 作付面積調査
調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行った。
- (2) 作柄概況調査
調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

6 集計方法

- (1) 作付面積調査
対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめている。
- (2) 作柄概況調査
調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめている。

7 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの(WCS用稲、わら専用稲等を含む。)のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指す。
- (2) 「穂数の多少」は、1㎡当りに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (3) 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (4) 「全もみ数の多少」は、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- (5) 「登熟の良否」は、登熟(開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実)が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- (6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素(1㎡当たり穂数等)の平年値との比較である。

多 少 (良 否)	少ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95~98%	99~101%	102~105%	106%以上

- (7) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率である。
- (8) 「10a当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10a当たり収量をいう。

8 作柄表示地帯

北海道における作柄表示地帯は、下表のとおりである。

なお、平成26年産から、従来「北空知」地帯に含まれていた幌加内町を「上川」地帯へ、同じく「上川」地帯に含まれていた天塩町を「留萌」地帯へそれぞれ移動した。

作柄表示地帯	対 象 地 域
石狩	札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、石狩振興局管内
南空知	夕張市、岩見沢市、美瑛市、三笠市、空知総合振興局管内のうち南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町
北空知	芦別市、赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、空知総合振興局管内のうち奈井江町、上砂川町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町
上川	旭川市、稚内市、士別市、名寄市、富良野市、上川総合振興局管内、宗谷総合振興局管内
留萌	留萌市、留萌振興局管内
渡島	函館市、北斗市、渡島総合振興局管内
檜山	檜山振興局管内
後志	小樽市、後志総合振興局管内
胆振	室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、胆振総合振興局管内
日高	日高振興局管内
オホーツク・十勝	釧路市、帯広市、北見市、網走市、紋別市、根室市、オホーツク総合振興局管内、十勝総合振興局管内、釧路総合振興局管内、根室振興局管内

9 利用上の注意

- (1) 統計数値については、以下の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがある。

原 数	7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)	
四捨五入する桁数(下から)	3桁	2桁		1桁	四捨五入しない	
例	四捨五入する前	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した後	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- (2) 表中の「△」は、減少したものを示す。

10 その他

本調査における作柄概況(9月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行ったものである。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

【ホームページ掲載案内】

この統計調査結果は、北海道農政事務所ホームページ中の農林水産統計公表資料(北海道)に掲載しています。

<http://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/sokuho/h26kouhyou.html>

お問合せ先

- ◎本統計調査結果について
農林水産省 北海道農政事務所 統計部
生産流通消費統計課
電話 : 011-642-5619 (直通)
- ◎農林水産統計全般について
農林水産省 北海道農政事務所 統計部
統計企画課
電話 : 011-642-5609 (直通)
FAX : 011-642-5944 (共通)

平成27年2月1日現在で、2015年農林業センサスを実施します。